

みのじ 美濃路

垂井宿追分で中山道とわかれ、宮宿(熱田)で東海道に合流するまでの7宿を含むおよそ60キロの街道が、美濃路です。二大街道を結ぶバイパスとして栄えた道筋でした。途中にある木曾三川は、ふだんは渡し舟で渡りましたが、通信使のためには特別に、舟をつないでその上に板をわたした舟橋がかけられました。その堅固さは、まるで陸上を行くようだ、との使節も感嘆したとされます。

通信使が美濃路を通ったのは、1764年(宝暦14年)3月が最後でした。朝鮮通信使以外には、琉球使節が1714年(正徳4年)を最初として、1850年(嘉永3年)まで、たびたび美濃路を経て江戸まで往復しました。また、宇治茶を江戸に運ぶお茶壺道中も、美濃路をたどっています。変わった通行者としては、1729年(享保14年)の象があげられます。この象は中国船で長崎に着いたもので、各地で注目を浴びながら、美濃路経由で江戸に向かい、江戸城で將軍・徳川吉宗の見物に供されました。



じゅうろくそん ほうねんおどり 拾六村の豊年踊

拾六村(現・大垣市十六町)には、豊年の秋に、紀州徳川家と通信使を模倣した大行列がくりだされました。「豊年踊」といわれたこの行列は、百数十名にもおよぶもので、伝えられた衣装をみると、ススキの穂や切り紙などで巧みに日常着をかざり、異国情緒をかもしだしています。

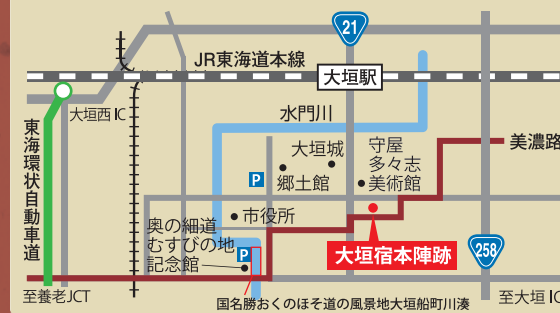


豊年踊 / 昭和30年当時の写真

記念スタンプ欄

交通のご案内

飛行機	中部国際空港	名鉄空送機ミュージアム	名古屋	JR東海道本線快速	大垣
		28分			31分
鉄道	東京	のぞみ号	名古屋	JR東海道本線快速	大垣
		99分			31分
	新大阪	ひかり号	米原	JR東海道本線普通	大垣
		36分			33分
自動車	名古屋IC	東名高速道路・名神高速道路			大垣IC
		49km			
	京都東IC	名神高速道路・東海環状自動車道			大垣西IC
		106km			



- JR大垣駅から徒歩14分
- JR大垣駅(2番のりば)からバス8分「共立銀行前」下車徒歩3分
- 名神高速道路大垣ICから車で18分
- 東海環状自動車道大垣西ICから車で13分

大垣観光協会

〒503-0923 岐阜県大垣市船町2丁目26番地1 奥の細道むすびの地記念館内
TEL.0584-77-1535 FAX.0584-81-8828 <http://www.ogakikanko.jp/>

大垣観光 検索



観光情報を
チェック!



奥の細道
むすびの地

みんなで築こう 人権の世紀
～考えよう 暮らしのなかで 未来へつなげよう 思いを形にしよう～

朝鮮通信使と大垣

「エネスコ世界の記憶」
「朝鮮通信使に関する記録―17世紀―19世紀の日韓の平和構築と文化交流の歴史―」

